

日大生のやってみたいを実現するプロジェクト成果報告書

2023006

プロジェクト名 NU SDGs Project.

プロジェクトの概要

本プロジェクトの主な目的は、女性特有の問題や関連するSDGsの課題への理解を深めることである。これまでタブー視されていた、女性の生理に関するデリケートな問題について考え、体験してもらう機会を設けるため、11月と1月にイベントを開催し、「生理痛体験会」、「生理用品体験会」、「婦人科検診の受診促進」及び「専門家によるパネルディスカッション」といった企画を準備した。また、本学教員の授業内で「生理の貧困」について講義を行った。

プロジェクトの結果・成果

11月と1月に3つのイベントを開催し、計170名の学生や教職員、地域の方等にご参加いただき、『やってみたい』を実現した。以下、企画の内容とイベントの成果を報告する。

①生理痛体験会（生理痛VR体験デバイス「ピリオノイド」を用いた疑似体験・ベルトを着用し、5kg～8kgのおもりを段階的に下腹部に乗せる疑似体験）

②生理用品体験会（「生理×災害」をテーマにクイズを行い、多種多様な生理用品をみて、さわりながら解いていただくことで学びを深める企画）

③婦人科検診の受診促進企画（婦人科医で本学OGの方にご協力いただき、子宮頸がん検診の受診手順に関する動画を作成し、公開・乳がん検診に関する動画とポスターを作成、公開）

④医療×行政の専門家によるパネルディスカッション（現役婦人科医と本学危機管理学部教授の鈴木秀洋先生にご協力いただき、「生理の貧困」をテーマとした議論）

イベントの参加者に対し、女性特有の問題や関連するSDGsの課題への理解が深まったかアンケートを行った結果、いずれのイベントにおいても、ほぼすべての参加者が「女性特有の問題や関連するSDGsについての理解が深まった」と回答。さらに、約95%の参加者が「学校や会社等で女性特有の課題解決のためのアクションを起こしたい」と回答した。イベントを通して、年齢や性別を問わず、多くの方から課題を“自分ごと”として捉えることができたという声や活動に参加したい等の声を頂いたことは、何より大きな成果である。また、活動を通じて企業や自治体、同じ志を持つ仲間に出会えたことも、かけがえのない大きな成果のひとつである。なお、本プロジェクトはNHK（日本放送協会）のテレビ番組及び公式X、日本大学新聞社、日本大学及び日本大学三軒茶屋キャンパスのホームページに取り上げていただいた。

活動写真

